



俗離山登山案内看板

符(仁川空港→大田)を購入、朝食後8:20発大田行き高速バスに乗車。11:30大田着後、あすの俗離山(ソニサン)行きバスの切符を購入して、ついでに乗り場を確認をしておこうと下りたバスターミナルで切符売り場を探す。見た範囲ではそれらしいものは見当たらない。Sさんが尋ね、その人の指差す方に進み、建物の外に出れば、そこは車のたくさん行き交う大通り、笛を吹いて車を止めて信号がない大通りを安全に渡す人が忙しく働いていた。左右を見てもお店が並ぶばかりで困惑する。どうみてもバス切符を売っている窓口らしきものはないのだ。再び中に戻ってSさんが聞いてくれば、なんとバスターミナルは大通り向こうだったのだ。

渡ってみれば、こっちはバスの出発ターミナルのようで、たくさんの切符販売窓口がならんでいて。窓口前にいるタスキをかけた案内係らしき人が数人いる。当たり前だが日本語で聞いてもこちらの言いたいことは伝わらず、向こうも困ったのか、ついに日本語の分かる上司が登場する。言葉が通じるというのはありがたい。

無事に明日の俗離山行きの切符を購入でき、今夜泊まる儒城温泉行きバスの時刻表ももらえた。午後から「ハンバット樹木園を見学して、その後、儒城温泉に行きたい」と言う。「それなら、温泉は樹木園からの方が近い。またバスターミナルに

戻ってバスに乗るよりタクシー利用の方がいい」と教えてくれる。

さて、お昼を食べよう。ターミナル内のフードモールの献立サンプル展示ケースを眺める。見た目で食べたいものを「これ」と決めても、ハングルが読めないのもので、食券を買うレジに行っても注文が出来ない。文盲ではまます、ここでもSさんをお願いする。

昼食後、タクシー2台でハンバット樹木園へ向かう。タクシー乗り場先頭車にSさんが乗り込む。ハンバット樹木園の

コピーを手渡された私がすぐ後ろの車に乗ろうとすると「前の乗車位置に車がいってから乗れ」という感じで乗せてもらえない。近くにいた韓国人がさっさとその車に乗りこんでしまった。2台も後ろの車にハンバット樹木園のコピーを見せて「ここへ行ってくれ」と指す。車が行きたい方に走っているかを地図とにらめっこで確認。なんとか前の車と同じ場所に無事到着した。ところが、植物園へ行くつもりだったのに車はエキスポ公園前についてしまった。樹木園はそこで正しかったのだが、こちらが樹木園を植物園と勘違いしたのだった。

真昼の日差しはともかく暑く、植物園にこだわる気持ちはたちまち失せてしまった。重荷のザックを何とかしなくちゃ身動きがとれない。エキスポ公園管理室に立ち寄って1時間だけの約束でリュックを置かせてもらえほっとした。空身で樹木園の東園を散策、蓮池ではハスがきれいに咲いていた。

荷物を引き取って、日盛りの公園は暑くてかなわんと子どもが水遊びするジャブジャブ池を目の前の休憩所で、アイスコーヒーを飲みながらゆっくり休んでやっと生き返った。

15時過ぎ儒城温泉キョンハホテル(HOTEL KYUNGHA)にタクシーを横付ける。

今日からの3泊はオンドル部屋でよかった。大

浴場入浴料金は別途200W。

16:30から温泉案内図を手に街探検歩きに出てみれば、私達のホテルは街外れで中心街には大きく立派なホテルが建っていた。途中で夕食をとって、コンビニで朝食用、昼食用の食料を調達するも、ここでもハングルは読めず、包装のおにぎりの具材は不明で、中身は食べてみてのお楽しみ?

20:00頃帰館。大浴場入浴は時間切れで明日に持ち越しとなる。

◆18日(日) 俗離山(ソンニサン)²⁾登山

5:40ホテル前からタクシーで大田東部バスターミナルへ。Sさん乗車の車が先着、10分たっても後続のTさんの車は来ないのだ。ホテルのフロントの男性が行き先を大声で言っていたにもかかわらず、儒城温泉バスターミナルに行ってしまった? どうしちゃったのかな。後から聞いてみれば、料金稼ぎにか街中を2巡してから大田東部バスターミナルに来たようだった。言葉がわからないのでどうにもならないので、昨日購入済みの俗離山行きのバス切符を見せたら、やっと大田東部バスターミナルにタクシーが向かったということだ。

日曜で混雑するからと前もって購入したのに、6:50発バスはガラガラだ。ナップザック軽装の韓国人中年女性3人連れも俗離山に行くようだ。

乗ってみて、韓国のバス停は日本のようにバス道路沿いにある場合もあるが、バス幹線道路や街中の道路から引っ込んだ場所にバスターミナルがあることが分かった。無人のターミナルには自動販売機が設置され、離れたところにトイレもある。そして停まったバスは何の予告もなく発車するのだった。

8:27俗離山バス停着。さて、どっちの方向へ進んだらいいのか? うろうろした揚句、北に山が見えて方向が定まる。お寺のみやげ物店兼食堂が立ち並び門前町風通りを抜けて行く。バス車内でおにぎりを1つ食べただけの私は、どこで朝御

飯にするのか気になるが、Sさんはどんどん先に行ってしまう。店先の平箆に黒い小さな巻貝殻が山になっていて、何という貝だろうと興味をそられた。

途中の分岐で、ハングルを形で判断して登山口と読んで脇道に入りこみ口スタイム。正しい道を進むと林間にキャンプ場があり、そこは家族連れのテントが所狭しと立ち並び朝食の準備中だった。車もいっぱい、後から後から車がくるので、駐車整理の人もいた。彼が登山口はあっちと左手を指さす。やっぱり今日は日曜日だと納得。

ここから左、大勢の韓国人登山客に交じって、沢沿いの整備された公園内の道を歩いていくと男の子2人と夫婦とみられる家族が前を歩いている。荷物を持っているのはお父さんだけだ。「ファミリー?」と声をかけると「そうだ」という。こちらが日本人と分かるとスマートフォンを操作して金閣寺に行ったときの写真をみせてくれた。

(続く)

■注記

1) 儒城温泉:(ユソンオンチョン)は、大田広域市郊外にある温泉。市の中心街から西へ11kmほど離れたところにある。大都市の大田近くにあるため数多くの旅館、ホテル、飲食街が建ち並ぶ。近くに2002年のワールドカップの会場にもなった競技場がある。儒城温泉には以下のような伝承が存在する。百濟時代の末期、新羅との戦争で大怪我をした息子を持つ母親が、この地に湧き出る温泉で鶴を見た。鶴は温泉に翼を沈めると怪我が治った。それを見た母親が息子を連れて、その温泉に浸かせたところ怪我が綺麗に治った。

(ウィキペディアより)

2) 俗離山:1970年、6番目の国立公園に指定された。昔から第二の金剛、または小金剛と呼ばれるほど、秀麗な景色を誇る。総面積274,541km²に達する俗離山国立公園は、忠清北道と慶尚北道のいくつかの地域にまたがる岩山である。主峰の天王峰と毘盧峰、文蔵台は白頭大幹の壮大な稜線と連っており、岩峰と岩稜が発達している。俗離山には多くの山が接していて、南の天王峰(1,058m)を中心に、毘盧峰、文蔵台、観音峰など、8つの峰が弓のように曲がった形で伸びている。

(ウィキペディアより)